

太陽光発電の明るい未来に向けて － 学振第 175 委員会における WinPVJ 分科会の取組み

Towards bright future of photovoltaic power generation - Efforts of WinPVJ subcommittee for promotion of female researchers under JSPS175 Committee

(株) 資源総合システム¹ ○貝塚 泉

RTS Corporation, [○]Izumi KAIZUKA

E-mail: kaizuka@rts-pv.com

世界における太陽光発電システムの 2017 年の導入量は、前年の 75GW から約 33%増の 100GW 前後に成長する見込みである。2018 年以降は年間 100GW レベルの市場が継続することが期待されている。市場や用途の拡大に伴い、太陽電池にはさらなる性能向上や信頼性の向上が要求されている。研究・開発分野での人材育成も課題であり、この分野における女性研究者の活躍が一層求められている。

日本学術振興会（JSPS）の産学協力研究委員会のひとつ、次世代の太陽光発電システム第 175 委員会（以降、JSPS 第 175 委員会と記す）は、次世代太陽光発電システムについて、従来の組織の壁を越えて、太陽電池材料、太陽電池技術、システム技術分野を含めた学界、産業界の研究者、技術者が組織横断的に情報交換や、協同で研究を行うことを目的に平成 16 年 4 月に設立され、平成 27 年 4 月から第 2 期の活動が開始されている。JSPS175 委員会においては、モジュール・システム、化合物太陽電池、次世代シリコン太陽電池、有機太陽電池及び超高効率太陽電池といった技術分野に重点を置いた分科会が活動を実施しているが、太陽光発電分野における女性研究者の活動を推進するために Women in Photovoltaics（WinPVJ）分科会が平成 28 年に発足した。

WinPVJ 分科会は、①女性研究者の研究成果の発表機会の創出、②学際的なネットワーキングの機会の創出、③女性研究者への理解の醸成、④他機関/国際会議との連携－を重点に置いて活動を継続している。女性研究者の研究成果の発表機会の創出の事例としては、JSPS 第 175 委員会が開催した国内シンポジウムにおいて、WinPVJ セッションを設けていただき、招待講演及び一般投稿から計 4 名の女性研究者が口頭発表を行った。この他、研究会を開催し、太陽光発電の応用事例としてスマートシティや水素生成設備の見学と関連分野の講演にも女性研究者を招聘し、学際的なネットワーキングの機会としている。他機関/国際会議との連携については、平成 29 年 11 月に滋賀県・大津で開催された第 27 回太陽光発電国際会議（PVSEC-27）において、PVSEC で初めての開催となるワークショップを開催し、米国、オランダ、タイ及び日本の女性研究者により、研究成果や知見を共有する機会を得た。今回の応用物理学会・男女共同参画委員会との共催によるシンポジウムもこの活動の一環である。

本講演では、太陽光発電の現状を踏まえたうえで、WinPVJ 分科会の活動状況について報告する。